

阿南市地域公共交通活性化協議会 令和3年度 第2回会議 議事録

日 時 : 令和3年11月8日(月) 14:00~

場 所 : 阿南市役所3階 303会議室

出席者 : 阿南市 市長 表原 立磨
阿南市 副市長 山本 俊也
阿南市 特定事業部長 岡田 佳造
阿南市 特定事業部理事 倉本 正樹
阿南市 保健福祉部長 吉村 茂宏
徳島県次世代交通課 課長代理 宮島 課長補佐
徳島バス阿南(株) 取締役社長 千本 寿史
四国旅客鉄道(株) 徳島企画部長 山本 仁志
毎日タクシー(有) 代表取締役 畠山 頼彦
伊島連絡交通事業(有) 代表取締役 粟田 一元
四国地方整備局徳島河川国道事務所 副所長 山本 健司
徳島県南部総合県民局(阿南) 県土整備部部長 徳永 雅彦
阿南市 建設部長 都築 宏基
阿南警察署交通課 課長代理 坂本 係長
阿南市民生児童委員協議会 会長 丹生川 和彦
阿南市セニアクラブ 会長 吉田 忠彦
利用者代表 小川 美紀
四国運輸局徳島運輸支局 首席運輸企画専門官(輸送・監査) 坂本 貴之
四国運輸局徳島運輸支局 首席運輸企画専門官(総務・企画観光) 賀出 晴美
阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 准教授 加藤 研二
【事務局】(まちづくり推進課) 湯浅 課長、武田 課長補佐、西野 係長、
佐野 主事
株式会社 GPMO 山本、寺尾
欠席者 : 徳島バス(株) 企画管理部 副部長 東 孝行

議 事 :

- (1) 第 1 回会議の議事内容を踏まえた阿南市における地域公共交通の現状と課題の整理について
- (2) アンケート調査及び交通事業者ヒアリング結果について
- (3) 阿南市地域公共交通計画における施策（素案）について
- (4) その他

資 料 :【配布資料】

- 資料 1 阿南市における地域公共交通の現状と課題の整理及び対応策の検討について
- 資料 2 阿南市地域公共交通計画策定業務（住民アンケート調査報告書）
- 資料 3 公共交通事業者ヒアリング調査
- 資料 4 対応策の検討
- 資料 5 循環バス（ナカちゃん号）の 1 便あたりの乗降者数
- 資料 6 バス路線網図、公共交通不便地域、バス停の 1 便平均乗降客数、路線バスの運行回数

1. 開 会

(事 務 局) おはようございます。定刻になりましたので只今から「阿南市地域公共交通活性化協議会 令和 3 年度第 2 回会議」を開催させていただきます。

本日はお忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

それでは、これから協議に入りますが、本会議の議長につきましては、規約第 7 条第 1 項によって、会長がこの場の議長を務めることとなっておりますので、山本副市長、よろしくお願いいたします。

2. 議 事

議事 1. 第 1 回会議の議事内容を踏まえた阿南市における地域公共交通の現状と課題の整理について

(山本副市長) それでは早速でございますが、議題 1 の第 1 回会議の議事内容を踏まえた阿南市における地域公共交通の現状と課題の整理について、事務局から説明をお願いいたします。

(事 務 局)【資料 1 説明】

(山本副市長) ここまでの説明につきまして、なにかご質問あるいは確認事項等ございませんでしょうか。

(全 委 員)【質疑応答なし】

議事 2. アンケート調査及び交通事業者ヒアリング結果について

(山本副市長) それでは続きまして、住民アンケート調査、交通事業者の皆様へのヒアリング調査につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(事 務 局)【資料 2 説明】

(事 務 局) 議事の途中ではございますが、表原市長が出席されましたので、市長よりご挨拶を申し上げます。

(表原 市長)【市長あいさつ】

(事 務 局) それでは議事に戻ります。

(事 務 局) 【資料 3 説明】

(山本副市長) ここまでの説明につきまして、なにかご質問あるいは確認事項等ございませんでしょうか。

(委 員) 簡単にアンケート結果の補足説明をさせていただきます。11 ページでは、90%の世帯で自家用車を所有しています。けれども、その一方で、日常の移動について不便を感じておりまして、不便を感じている人が 19.1%、将来の不便を感じている人が 57.4%、合わせて 76%ぐらいの人が何らかの将来への不安を感じているという調査結果になっています。

また本調査から見えてくることは、積極的に利便性を高める路線の見直しを行い、地域で支える新たな交通モードの導入を望む声があります。乗合タクシー、ご近所ドライブパートナーなどの自家用有償輸送運送業のようなところに、焦点を当てていく必要があると感じています。

(山本副市長) 今のお話も含めまして、忌憚のないご意見、ご質問を賜ればと思います。

(委 員) 28 ページの調査結果について、矛盾な回答があるのは、皆様わかりますでしょうか。「自分だけが公共交通を利用しなくても、公共交通は無くないと思っていますか」よりも「自分だけでも将来のために積極的に利用したいと思いませんか」の「とても思う・思う」の割合が高くなっています。本来は少なくならないといけないのですが、必ず高くなってしまいます。ここがポイントで、他人ごとと考えている傾向が強くて出ている結果になっています。その中でおそらく 29 ページの市の公的負担についての設

問で、自分は利用するけど増やしたくない人が、自分は利用するから増やしても構わない人がどういう人なのかを探っていくと、次の手が打てると思います。

他人ごとになると、他のみんながやってくれると思い、様々な施策を打ってもなかなか効果が出ないのは、根本のところを直さないと結果が出ません。結果の直し方として、8,000万円を市民に公共交通を維持するために均等割りで払ってもらおうこととし、市の税金ではなく、公共交通を利用するための税金として払い、負担してもらいます。ただ割安で乗れる制度を作ってあげて、利用すればするほど自分が得になるからくりを作ることでも1つの案です。あくまでバスを維持するためにいくら払っていることがわかり、自分ごとに少しでも落としていく制度ができると、少し乗ってみようと思う人が増えるとありがたいです。

現在のアンケート回答では、多分自分は公共交通に乗らないけどサービスの改善を望んでいる人がいます。サービスが改善したら乗るかというに乗らないです。そのため、乗らないことがわかっているのであれば、最初から負担してもらおうところにフォーカスを持っていき、そこからサービスを改善するのも1つの手だと思います。

(山本副市長) ありがとうございます。他にございませんか。

(委員) 1ヶ月ほど前に88歳の高齢者1人暮らしの女性から、病院に行くのに相談がありました。相談者は以前バスで行っていましたが、足が悪くなり、バスの利用は難しいです。現在、行きは福祉タクシーまたは介護タクシー（どちらを使っているかは不明）、帰りはタクシーを使っています。領収証を見せていただいたところ、1回病院に行くのに1万円かかっていました。1人暮らしの高齢者の女性で、そういった現実にあります。

今後、公共交通を利用する際に、市が半分または3分の1の負担になる施策を考えてほしいです。これからますます必要になってくると思います。一部は見直しを行い、公的負担を削減してもいいですが、運転できなくて公共交通を利用したい人がどんどん増えてきているのも現実です。

(山本副市長) 行政或いは交通事業者の皆様と一緒にあって、地域の高齢者の足を確保していくことは大きな課題になり、答えを生み出していかなければなりません。様々なご意見を賜って、本会議で方向性を見いだすことができればと考えてございます。

(委員) コロナ関係で、県からプレミアム交通券が出ました。販売店のみ購入と

なり、高齢者 1 人で販売店に出向くには移動のハードルがあります。そのため息子・娘、孫が新聞で情報を得て購入しています。1 人 1 万 5,000 円の購入で 3 万円分の利用ができます。

偶然にもコロナのおかげでプレミアム交通券が購入でき、住民は助かっています。私は今後もコロナが終わっても、今度は市が代役となり住民への支援をしてほしいです。プレミアム交通券のような半額というわかりやすい数字で支援することで、高齢者はすごく助かると思います。ただ息子・娘、孫が県外の人で、プレミアム交通券が手に入らないという人もいます。プレミアム交通券を購入できない人にも同じようなサービスができないかと思っています。

(山本副市長) ありがとうございます。プレミアム付きのタクシーと公共交通機関への助成について、ご提案をいただきました。他にございませんか。

(委員) 加茂谷地区で始まっているご近所ドライブパートナーについて、私たちは状況が分からないので、どの程度活用されているか、満足度も含めて、教えてください。

(委員) 本事業は、バス路線が廃止になった旧大井線沿線地域におきまして、介護保険事業における介護予防日常生活支援総合事業の枠組みを活用した住民主体の移送サービスです。利用者の感想は好評で、複数人で利用すると遠足感覚で楽しく買い物に出かけることができると聞いています。

また令和 4 年度からは、那賀川地区北岸あたりで、NPO 法人の立ち上げの支援を行っています。NPO 法人が立ち上がってサービスを行う予定をしており、関係者と調整中です。

議事 3. 阿南市地域公共交通計画における施策（素案）について

(山本副市長) まだまだ議論も尽きないところですが 3 番目の議題に移っていきます。今回は短期的に実施すべき施策についての検討を行います。

資料 4 について事務局、説明をお願いいたします。

(事務局) 【資料 4、5 説明】

(山本副市長) ご意見を賜ればと思います。

(委員) 今ある運転手の数や車両の数の中で、1 日に運行できる時間は決まっています。その中でいかに効率的に運行するかが必要ですが、弊社が決める効率ではなく、お客様の通勤、通学の足となり、ダイヤをいかに納めるか、いわば資源をどこに集中させるかが、今後の課題だと思っています。

例えば阿南市から徳島市への移動はＪＲが担当し、阿南バスはいろいろな方面から阿南駅に接続する役割を担います。いわゆるダブルトラックです。役割分担を決めて、ＪＲの太い幹を決めて、そこへバスが集中的につながっていきます。役割分担を決め、木でいう幹の部分、枝の部分、葉の部分に分けることが必要だと思います。今後、10、20年後も地域にバスがあり、乗り物があり、安心して移動するためには、そういったシステムを作った方がいいと思います。

(山本副市長) ありがとうございます。利用者の立場或いはそれ以外の立場で何かございませんでしょうか。

(委員) 方向性としては役割分担を決めて運行していくようになると思います。できる限り利用される方に利用者が減っているので、半年間変わらないと減便になる可能性があるなど、情報を提供してあげた状態で、利用者が増えないのであれば仕方がなく、減便することも考えられます。利用しないと大変なことになりますということはある程度、オープンにした方がいいと思います。その中で、次に変更する案もある程度、見せておくことも必要です。様々なタイミングで変えていき、臨機応変に対応できるようになれば、より良いと思います。

(委員) ナカちゃんバスを作った経緯としては、公共交通空白地である那賀川町にバスを走らせることが一番の目的でした。そこからどんどん延伸しました。那賀川町の人を利用しないのは本末転倒なところがあります。10年以上も経っているので、見直しも必要です。那賀川町のために作りましたが利用しないのであれば、阿南市の利益を考えると、那賀川町の真ん中で切ることも必要だと思います。そこに至るまでのプロセスをしっかりと説明しながら、改編できるとみんな納得できると思うので、ぜひ検討してください。

(委員) 公共交通空白地を無くし、どこまでバス走らすかという中で検討しながら、走らせています。一方的に路線バスを切るのではなく、切る代わりに違う形で残すのか、どのようにカバーするかを検討する必要があります。皆様や住民と具体的に検討して、また違う方法の乗り物についても検討したいと思います。

(山本副市長) 他にご利用する立場で何かご意見等ございますか。

(委員) 私は2年間運転ができない時期がありました。そこで初めて、ナカちゃん号に乗りました。定期券を買い、毎日乗っていました。その時から様々

なことを感じていて、ただ走らしてもらっているだけではなく、利用しなければならぬことを、皆わかっているのかなと思っていました。町内の役員をしたときに、皆で1度乗りましようと言って、活動していた時期もありましたが、自分が役を終えると、誰もやりませんでした。那賀川町全体も含めて連合があるから皆で呼びかけて、活動をしてほしいと思いますが、人が変わらないままマンネリ化し、皆で活動することへの呼びかけが難しく、進んで行きません。

税金を使いバスを走らせています。そういった中で、利用者が少ない路線を切ることを考えられるのであれば、1回乗ってみなければ本当のことは分からないと思います。

(山本副市長) これから事業を進める上で、非常に貴重なご意見いただきました。他にございませんでしょうか。

(委員) 今、公共交通の事業者はコロナ禍で非常に大きな影響を受けています。利用者数も減っていますが、実は人口減少の未来が一気に訪れたと考えてもいいと思います。今の利用者数を1つ頭に置き、今後の交通ネットワークをどのように構築していくかを考える必要があります。その際に、交通モードそれぞれが持っている特性を最大限に生かし、持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指します。そして高齢者が自立して暮らせる地域を作ることを目標にしていいただければ非常にありがたいです。

(山本副市長) ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

3. 閉 会

(山本副市長) それでは閉会にあたりまして表原市長よりご挨拶をさせていただきます。

(表原 市長) 【市長あいさつ】

(事務局) 事務局から今後のスケジュールについてご連絡をいたします。今回の会議でいただいた意見を、議題としました施策案に反映させ、住民アンケートや乗降調査を基に、計画素案を策定します。計画素案を作成しましたら委員の皆様には、次回の会議にてご意見いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして阿南市地域公共交通活性化協議会、令和3年度第2回会議を終了させていただきます。本日はご協力ありがとうございました。

以上